どどーん

ニホンジカ
偶蹄目
シカ科シカ属
オスは50~130kg
メスは25~80kg
オスの角は毎年生えかわる。
エゾシカ、ホンシュウジカ、
キュウシュウジカetcの亜種

犯人はコイツ!!

作:平田美紗子

長年育ててきた木が…

丸裸!

なぬっ

せっかく植えた苗木が

あぁっ

丸坊主!

被害と向き合う巻

After

Before

多様な高山植物が

近年生息域は南アルプス等の高山帯にも拡大、貴重な高山植物に大きなダメージを与えています。

ハイケイソウや
マルバダケブキといった
シカの食べない
植物のみの裸地に

シカは国土のほぼ全域に生息し、個体数は300万頭以上。分布域の拡大にともない、農林業への被害も深刻化しています。

こみしぃ…

シカが増えすぎた場所では、下層植生が丸裸になり、土壌の流出も。

食害から守るために様々な対策はとられています。

防護柵(シカ柵)の設置

重機が入れない山の中では、杭を打ち込む作業も全て人力。

小規模な柵を多数設置する
パッチディフェンス→
万が一シカが柵内に入っても被害を最小限にできる。

シカの背が届く2m位まで巻く。

樹皮防御ネットやテープの巻きつけ
テープは生分解成、ネットは再利用可。

しかし増加するシカの個体数に、対策が追いつかないのが現状です。

糞塊法

シカの個体数を調べる調査。
固定のルートを調査員が歩き、
左右50cm範囲の糞塊を全て数える。

その為にはまず、シカの個体数を調査することが欠かせません。

●が10粒以上なら糞塊としてカウント。

あっ

下ばかり見ながら獣道を行くのでばったりクマに会うことも。

シカが増えすぎた場所では、生態系のバランスも変化します。

今後はシカの個体数を適正な値に戻し、崩れてしまったバランスを戻すことが必要です。

ウグイスやコマドリといったササ、下層木を生活の場に利用する鳥達は減少

食草の減少により、絶滅の危機にあるツシマウラボシシジミ

ラインセンサス法

固定ルートを車で走り、目撃したシカの数より個体数を調べる。

キラーン

とにかく人海戦術でシカを数える区画法なんてのもあります。

どりゃ——っ

夜中の調査はライトを用いて光る目を探す。気分はすっかりナイトサファリ!

生態調査にはセンサーカメラやGPS型首輪発信機を用います。

似合う?

データ回収後は脱落します。

また、個体数調整により捕獲されたシカや狩猟者からの情報も重要です。

シカは明治~昭和初期にかけての乱獲により個体数が著しく低下しました。

しかしシカの旺盛な繁殖力に加え、狩猟者の減少や暖冬による積雪量の減少…シカは大増殖してしまったのです。

今度こそ適正な個体数をたもてる様、調査を続けると同時に、狩猟者の育成や捕獲したシカの活用方法を整備し、

人と森とシカの上手なつきあい方ができますように

きちんと食べるのが供養と思うのです。

いただきます!

そしてシカ肉は鉄分も多くひじょーに美味なのです。